置給ヘトテ、持玉ヘル念珠ヲ投ラレケルヲ取テ、局ノ上ニ置レケレバ、此局獨リ歩テ、聖ノ前ニ來リケル也ト云事アリ、此上人モ打給ヒケルニコソ、

〔今昔物語十二〕多武峯增賀聖人語第三十三

今昔、多武峯ニ增賀聖人ト云人有ケリ、〇略中龍門寺ニ有ル春久聖人ト云ハ、此聖人ノ甥也ケレバ、年來極テ睦ジキ間、其ノ聖人來テ副ヒ居タリケレバ、聖人極テ喜テ、萬ノ事共ヲ語リテゾ有ケル、而ル間聖人既ニ入滅ノ日ニ成テ、龍門ノ聖人幷弟子等ニ告テ云ク、我ガ死セム事今日也、但シ碁枰取テ來レト云ケレバ、傍ノ房ニ有碁枰取テ來ヌ、佛居ヱ奉ラムズルニヤ有ルラント思フニ、我レ搔キ發セト云テ被搔起ヌ、其枰ニ向テ、龍門ノ聖人ヲ呼テ、碁一枰打タント弱氣ニ云ヘバ、念佛ヲバ不唱給シテ、此ハ物ニ狂ヒ給フニヤ有ラムト、悲シク思ヘドモ怖ロシク止事无キ聖人ナレバ、云フ事ニ隨テ、寄テ枰ノ上ニ石十許、互ニ置ク程ニ、吉々不打ト云テ押壞ツ、龍門ノ聖人、此レハ何ニ依テ碁ハ打給フゾト恐々ヅ問ヘバ、早ウ小法師也シ時、碁ヲ人ノ打シヲ見シガ、只今口ニ念佛ヲ唱ヘナガラ心ニ思ヒ出ラレテ、碁ヲ打バヤト思フニ依テ打ツル也ト答フ、〇略下

〔源氏物語四十竹川四〕碁うち給とてさしむかひ給へる、かんざし御ぐしのかゝりたるさまども、いと見所あり、侍從のきみけんぞし給とて、ちかうさぶらひ給に、あに君たち、さしのぞき給ひて、ざゞうのおぼへこよなくなりにけり、御ごのけんぞゆるされにけるをやとて、おとな〳〵しきさましてつゐゐ給へば、おまへなる人々とかうゐなをる、

〔嬉遊笑覽四雜伎〕勝負を傍に居て見るものをけんぞといべり、源氏、竹川玉かづらの姫君兄弟碁をうつに、姫君の弟侍從の君、けんぞし給とて近う侍ひ給ふといふことあり、注に見證なり、鞠などにもありといへり、

〔狹衣二〕ひるつかた參り給へれば、大宮もこなたにおはしましてもろともに碁うたせ給ふなり